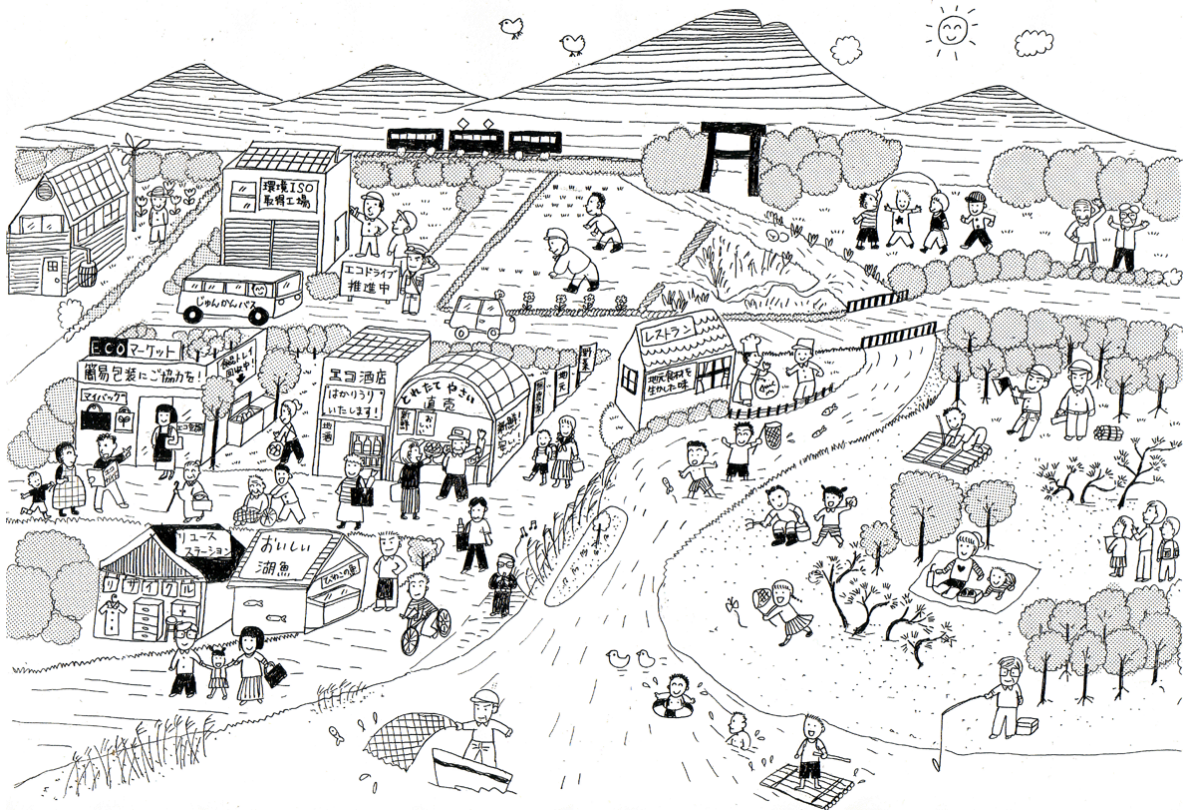


平成24年度 通常総会 議案書



市民活動支援センター(図書館) 大ホール

環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

平成24年度 通常総会 次第

平成24年5月11日（金）14:00～

市民活動支援センター 大ホール

1、開 会

2、挨 拶

3、御来賓挨拶

4、講演「マザーレイク21計画（第2期）策定後、県で何が始まったのか」 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 佐藤 祐一 様

5、活動事例発表

株式会社 村田製作所 野洲事業所 環境管理課 藤野 尚志 様

6、議 事

第1号議案 平成23年度 事業報告について

第2号議案 平成23年度 収支決算について

第3号議案 平成24年度 事業計画（案）について

第4号議案 平成24年度 予算（案）について

7、その他

8、閉 会

平成 23 年度 事業報告

各部会の活動実績

平成 23 年度は、昨年度の活動を継続して行っていく中で、関係団体・組織との連携や活動の積極的な情報発信を通じて、プロジェクトの組織拡充と活動の参加を呼びかけた。結果、学習会や啓発イベントを計 124 回開催し、延べ約 4,000 人の市民の参加を得ることができた。

特に平成 23 年度から 24 年度にかけて、行政において環境基本計画の中間見直しが実施されており、その検討委員会に参画し、計画前期における取り組みの成果と課題をまとめた。

自然部会は、県のマザーレイク 21 計画との連携を図るなか、里山から川、緑地、田畑、そしてびわ湖までの一連の自然環境の保全をめざした活動を展開した。さらに活動主体が中心となり、県の「新しい公共支援事業」に採択され、多くの市民に対してプロジェクトの趣旨を普及啓発するとともに、自然環境を軸とした地元産業の活性化を呼びかけた。

エコ資源部会は、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた仕組みづくりを行うため、市民が楽しみながら参加できるプロジェクトの実践（省エネ学習・生ごみ資源化・廃食油の利用促進・リユースの促進・エコな店ガイドブック）を進め、啓発講座の拡充に努めた。

まち・くらし部会は、一人ひとりが身近な暮らしで実践できる環境に配慮した行動（レジ袋の使用削減、エコドライブ）を普及させる取り組みを行った。また事業者や他の関係団体と連携することを目的に、活動の現状を取りまとめ、情報発信の仕組みを検討した。

運営委員会の開催

- ・ 第 1 回（H23.4 月） 総会の内容について、等
- ・ 第 2 回（H23.6 月） 活動広報について、等
- ・ 第 3 回（H23.12 月） 活動の状況、決算見込みについて、等
- ・ 第 4 回（H24.3 月） 活動実績について、等

情報発信

- ・ ニュースレター 年間 6 回発行
- ・ 地域 SNS「やすまる」 年間 34 回更新

平成23年度 プロジェクト活動（学習会・啓発イベント）の実績

自然部会

	概要	回数	人数	プロジェクト名
里山	里山での自然観察・体験学習会	4	303	野洲の里山の自然に触れよう、知ろう
	里山保全活動	29	305	
	森林ボランティア講座(「森づくり塾」4回連続講座)	4	89	
	小計	37	697	
川	ホテルの飼育学習会(ホテル学校)	1	86	「おらが川」人が楽しめるきれいな川づくり
	家棟川エコ遊覧(砂浜学習会含む)	28	565	
	家棟川・びわ湖清掃活動	7	148	
	流域ネットワークづくり(「水フォーラム」の開催)	1	56	
	小計	37	855	
びわ湖	びわ湖に親しむイベント(あやめ浜まつり)	1	277	琵琶湖を身近なものにしよう 葦地帯をみんなで増やそう
	漁民の森づくり事業	2	203	
	びわ湖学習会・苗ポットづくり体験	2	258	
	ヨシ植えイベント	1	240	
	小計	6	978	
緑	野洲川河辺林での自然観察会	1	70	河辺林の再生 まちなかの緑ボリュームアップ大作戦 鎮守の森再生
	河辺林保全活動	14	107	
	植樹活動	1	14	
	樹木管理講習会	1	80	
	小計	17	271	
農業	魚のゆりかご水田米 啓発	2	400	
	小計	2	400	
部会小計		99	3,201	

ごみ・資源部会

	概要	回数	人数	プロジェクト名
環境学習	地球温暖化に関する学習会	5	244	みんなで進める環境学習
	小計	5	244	
リユース	リユースセンターでの物品無償譲渡会	1	30	お得で楽しいリユースステーションをつくろう
	小計	1	30	
廃食油	キャンドルつくり出前講座	5	116	天ぷら油を捨てずにエネルギー(BDF)化しよう
	小計	5	116	
エコな店	エコな事業所見学会	1	25	「こんなエコな店あるよ」ガイドブック作成事業
	小計	1	25	
部会小計		12	415	

まち・くらし部会

	概要	回数	人数	プロジェクト名
グリーン購入	マイバッグ持参啓発キャンペーン	1	12	ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち
	買い物ごみ減量出前講座	10	345	
	グリーン購入啓発講座	1	20	
	小計	12	377	
エコドライブ	エコドライブ講習会	1	22	一人ひとりが自動車社会見直す「エコドライブ活動」
	小計	1	22	
小計		13	399	

合計

124回	4,015人
------	--------

【参考】

平成20年度 66回 1,901人

平成21年度 107回 3,826人

平成22年度 94回 3,670人

自然部会 事業報告

1. プロジェクト 『おらが川』 人が親しめるきれいな川づくり」

事業費 200千円

① 家棟川エコ遊覧の開催（4月～11月 28回実施 延べ565人参加）

市内コミセンの事業や観光物産協会などと連携し、市内の河川の多くが流入する家棟川で手漕ぎの小型舟に乗り、豊かな生態系の観察を行う一方、河川の水質や散乱するごみの状況を直接体験する学習会を開催した。

- 子どもを対象とした環境学習

特に子どもを対象とした櫓漕ぎ体験や環境学習に、希望が丘文化公園の事業などと連携した結果、約105人が参加した。

② ホタル学校の開催

市内8ヵ所でホタルの幼虫の飼育実践を行った。計およそ600尾の幼虫を地域の川へ放流した。これらの活動を広めるため、地域で観察会を行ったほか、北野小学校3年生と連携した学習会を実施した。

③ 流域ネットワークづくり（水フォーラムの開催 H23.7.2）

水源の山から、森、里川、田畑そしてびわ湖まで、流域のそれぞれの場所で水環境の保全に取り組む計6団体からの活動報告を通して、流域ネットワークを形成し、水環境保全への意識向上を図った。

④ 河川清掃活動（年間7回実施）

他の市民団体や地域、企業などとも連携し、家棟川を中心に、あやめ浜、新川、童子川、中の池川など積極的な活動を実施できた。生活ごみが多く流れてきているのが現状である。

⑤ 生態回廊の再生

琵琶湖環境科学研究センターの協力のもと、家棟川流域9ヶ所で生態調査を実施。貴重なタナゴなどの種が確認されている。また19尾の遡上が確認できたビワマスを保護するため、県と連携し、産卵期の禁漁期間を啓発するのぼり旗を設置した。

2. プロジェクト「野洲の里山の自然に触れよう、知ろう」

「山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう」 事業費 148千円

① 里山・林道の保全作業の実施（32回実施 延べ325人参加）

地元生産森林組合と連携し、定期的（毎月第1土曜日・第3火曜日）、また必要に応じ臨時の里山保全活動を実施した。また生産森林組合の管理地の一部を「山部会の森」として、子どもたちを対象とした学習・自然体験のフィールドとして整備・活用している。保全作業の主な内容は以下のとおり。

- 林道整備（草刈り、溝整備、臨時の溝蓋復旧）
- 伐採した雑木のチップ化
- 植林、枝打ち、下草刈り
- 登山道の整備・復元

- 登山道への案内板（道標、レスキュー杭）の整備・点検
- ② 子どもや市民が里山に親しむ活動（4回実施 延べ303人参加）

里山の歴史や自然、山の大切さなど、里山の重要性について理解を深めてもらう啓発イベントを開催した。特に今年度は、おうみ未来塾や青年会議所、ガールスカウトなどの団体とも連携できた結果、多くの子どもたちが里山で自然体験を行えた。篠原小学校の全校児童「伊勢道峠越え」案内は、荒天（大雨警報）のため中止となった。

 - 「タムシバ山から城山 花登山」 H23.4.10 43人参加
一般市民対象
 - 「集まれ里山 Kids」 H23.8.7 64人参加
小学生・保護者対象 おうみ未来塾との共催
 - 「やすっこ里山冒険隊～見つけよう！心の大自然」 H23.10.29 77人参加
小学生対象 野洲青年会議所との共催
 - 「里山探検キッズ」 H23.11.20 89人参加
小学生対象 野洲川地区ガールスカウトと共催
- ③ 「森づくり塾」を開講（H23.5.15、6.19、7.24、11.19 4回連続講座）

山部会で活動する人を増やし、山の保全活動の活性化を図っていくため、山作業の基礎的な知識や里山の歴史などを学んだ。

 - 里山の現状、間伐方法の実習
 - 小堤城山の歴史
 - 草払い機・チェーンソーの使い方と整備方法（実習）
 - 里山の自然を楽しむ（ネイチャーゲーム講座）

3. プロジェクト 「びわ湖を身近なものにしよう」

事業費 225千円

- ① 家棟川エコ遊覧・湖魚の伝統食・砂浜学習会の開催（H23.5.28 60人参加）

びわ湖の漁師から昔と今のびわ湖の環境の違いについて学習した。また、家棟川では水生生物や水鳥の観察学習や櫓漕ぎ体験を行った。

昼食には、湖魚の伝統食であるアメノイオ（ビワマス）ご飯や鮎煮、エビ豆、シジミの味噌汁などを体験し、びわ湖の食文化と生態系についても学んだ。
- ② あやめ浜まつりの開催（H23.8.22 277人参加）

シジミ採り体験やびわ湖の食文化体験など、びわ湖に親しみながら、びわ湖について学ぶことで、水環境の保全意識の高揚を図るための啓発イベントを開催した。
- ③ 漁民の森づくり事業の実施

びわ湖の水資源を守るために、漁業関係者や生産森林組合と協力し、団体・企業などの参加のもと、水源となる山（大篠原地先）の整備を実施した。

 - 枝打ち作業 H23.12.10 25人参加
 - 植樹作業 H24.2.19 178人参加

4. プロジェクト 「ヨシ地帯をみんなで増やそう」

事業費 125千円

① びわ湖の学習会とヨシ苗づくりの実施（中主小5年生 129人）

水資源機構や淡海環境保全財団、滋賀県と連携し、中主小学校5年生を対象にした環境学習の一環として、びわ湖とヨシについての学習会を行い、学校の池でヨシ苗の栽培を行った。

② ヨシの植栽イベントの開催（H23.11.13 240人参加）

地元自治会を始め、各種団体や企業などと連携し、ヨシの植栽を行う市民参加型イベントを開催した。ポット苗 750 株、マット苗 60 枚、計 630 m²の植栽を行った。同時にびわ湖岸の景観を保全するため、松林の保全（雑木伐採作業）を行った。

③ 県事業との連携

現在、ヨシ植栽を行っている東側において、滋賀県が自然再生事業（ヨシ群落再生事業）を実施することとなった。平成 23～24 年度の調査設計において、県や市、専門家と協議をしながらヨシ群落の再生に取り組んでいく。

5. プロジェクト 「まちなかの緑ボリュームアップ大作戦」 「河畔林の再生」「鎮守の森再生」

事業費 161千円

① 河辺林の保全活動（14回実施 延べ 107人参加）

市内に現存する野洲川の河辺林（野洲市市三宅地先）を、市民が散策などの憩いの場として利用できる自然公園「緑のプロムナード」として整備するため、浸食している竹の伐採作業等を行った。

また家棟川流域において、河辺林創生の可能性を調査した結果、いくつかの適地を確認することができた。

- 「自然観察会 タケノコ掘り」 H23.6.4 70人参加

河辺林における啓発イベントとして、子どもの参加も多く、身近な河辺林の自然の恵みを体感できた。滋賀の食事文化研究会と連携し、タケノコ料理の試食も実施した。

- 県立大学との連携

滋賀県立大学の「地域人講座」において、学生を受け入れ、活動の紹介を行った。その結果、県立大エコキャンパスプロジェクトとの連携するきっかけとなった。

② 市内緑化の推進

身近な緑の大切さを訴え、保護育成していくための取り組みを行った。特に関西アーバン銀行から助成金を得て、図書館など市内の公共施設3箇所にタブノキ、シイノキ、クスノキを、地域の寺社1箇所にサカキ、ツバキを植樹した。

- 野洲駅南口整備に関する意見具申

市から緑化に関する意見照会があり、他市の事例や専門家の意見も踏まえて、意見具申を行った。

- 樹木の管理と剪定講習会 H24.3.3 80 人参加
樹木匠による講習会を実施。自治会やシルバー人材センターに呼びかけ、樹木の生態に沿った管理方法の講習・実習を行った。

6. プロジェクト 「環境保全型農業推進計画」

事業費 19 千円

① 魚のゆりかご水田事業の啓発

魚道を整備し、びわ湖から遡上するフナやナマズなどを水田で育てることで、生態系に配慮した減農薬栽培を 5 地区（安治、須原、堤、菖蒲、吉川）で実施した。

- 生き物観察会の実施（各地区で実施）
子どもを対象に、水田で孵化したフナやナマズなどの観察会を実施することで、田んぼで生きものが安心して暮らせることを実体験を通じて学習した。
- 魚のゆりかご水田米の普及啓発
JA と連携して、収穫感謝祭として「魚のゆりかご水田米」の PR を行った。

1. プロジェクト 「みんなで進める環境学習」

事業費 7千円

① 環境学習会の実施 (5回 延べ244人参加)

市民団体や子どもを対象とした環境学習を実施した。温暖化学習では、子ども達にも興味を持ってもらうため、クイズ形式を採用したところ好評であった。

また新たに、古紙を用いたリサイクルペーパーアートを講座内容に加え、体験型の講座に力を入れた。

- ・ 篠原学童保育所 H23.8.5 温暖化学習
- ・ コミセンしのはら H23.8.23 リサイクルペーパーアート
- ・ 三上幼稚園 H23.9.16 リサイクルペーパーアート
- ・ 野洲生活学校 H23.11.28 リサイクルペーパーアート
- ・ 祇王学童保育所 H24.3.26 リサイクルペーパーアート

2. プロジェクト 「生ごみ資源化システムづくり」

事業費 52千円

① 生ごみ減量の実証実験

昨年に続き、家庭で出来る生ごみの堆肥化について、省エネに配慮した好気性微生物の働きによる方法について実証試験を行った。またモニターを依頼している市民からの情報をもとに、手軽に実施できる生ごみ処理のマニュアルを作成した。

③ 小規模食品事業者への啓発

インターネット等を参考にし、業務用生ごみ処理機の選定参考資料を作成した。平成24年度に市内事業者への実態調査と併せて送付予定。

3. プロジェクト 「てんぷら油を捨てずにエネルギー(BDF)化しよう」

事業費 43千円

① 使用済み(期限切れ)てんぷら油の回収

市民団体エコロジーマーケットやすの会と連携し、毎月第4土曜日に回収協力拠点14箇所で使用済み天ぷら油の回収を実施した。

- ・ 回収量(合計 5,341L)

エコロジーマーケットやすの会	1,539 リットル
野洲市回収 BOX (市内 12 箇所)	3,802 リットル

② エコキャンドルづくり講座の実施 (5回実施 116人参加)

使用済みてんぷら油の回収、資源化を啓発するため楽しく学べる講座をふれあいサロンや学童保育所などで実施した。

4. プロジェクト 「お得で楽しいリユースステーションをつくろう」

事業費 97千円

① リユースセンターの試行実施

リユース制度（試行）を行政と連携し、実施した。より効率的な運営方法について協議し、陳列棚等の整備を行った。また譲渡会の周知については、周辺の量販店でチラシ配布を行ったほか、掲示看板をリユースセンターに掲示した。

また市が策定した新クリーンセンターの施設整備基本計画では、リユース機能を有した施設とすることが位置づけられた。

- 譲渡会の実績 (H23.10.27 30人参加)

小型家具	チャイルドシート	ベビーカー	車椅子	陶磁器	食器
7点	1点	1点	1点	多数	多数

5. プロジェクト 「『こんなエコな店があるよ』ガイドブック作成事業」

事業費 20千円

① 環境に配慮したエコな事業所見学会 (H23.11.15 25人参加)

昨年度作成した「エコな店ガイドニュース」に基づき、市内で環境に配慮した取り組みを実施している事業所の見学会を実施した。

- 株式会社 村田製作所 野洲事業所
コージェネレーション、工場内緑化、廃棄物のリサイクル
- 野洲図書館
太陽光発電、ビオトープ、雨水利用
- 地産弁当（北桜志起人参組合）
地元産の食材を使った弁当
- 南農園
減農薬栽培、生態系に配慮したミツバチ飼養
- おうみんち野洲店、すまいる市
地産地消の買い物

まち・くらし部会 事業報告

1. プロジェクト 「ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち」

事業費 184千円

① ごみを減らそう出前講座の実施

自治会や市民団体を対象に、買いものごみ減量をテーマとした楽しく、分かりやすい出前講座を実施した。平成23年度からは、祇王小学校の社会科の授業でも取り入れてもらった。

	回数	参加者
自治会、市民団体等	4回	117人
ふれあいサロン、敬老会等	4回	96人
小学校、学童保育所	2回	134人
合計	10回	345人

② 行政のレジ袋削減取り組みとの連携

行政（県・市）が中心となり、県内事業者や市民団体、市町がともに取り組んでいる買い物ごみの減量化と連携し、レジ袋の削減に向け協議を行っている。

- 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施（H23.10.25 12人参加）

市内の小売事業者43店舗にポスターの掲示を依頼したほか、市内スーパー3店舗で、マイバッグ持参推進を呼びかけるキャンペーンを実施した。

③ グリーン購入の啓発（H24.3.2 20人参加）

滋賀県グリーン購入ネットワークの事務局長を講師に、グリーン購入啓発の学習会を実施した。

2. プロジェクト 「一人ひとりが自動車社会を見直す『エコドライブ』活動」

事業費 191千円

① エコドライブ講習会の開催（H24.2.9 22人参加）

地域や企業においてエコドライブを普及するためのリーダーを養成するため、エコドライブが求められる背景とその運転方法、省エネ効果について学ぶ講習会を開催した。

3. プロジェクト 「『環境共育支援ネットやす』の設立と運営」

予算 事務費に含む

① 環境学習の現状見取り図の作成

市内で環境学習に取り組む団体や人など、「どこで」「誰が」「どのような」活動をしているのかについて情報集を行うため、まず各部会の情報を調査、整理した。

「つながり」再生プロジェクト 事業報告

1. プロジェクト 「山・川・里・湖の『つながり』再生プロジェクト」

事業費 県補助金

野洲市農林漁業活性化推進協議会に参画し、県の「新しい公共支援事業」において、農林漁業の活性化と生態回廊の再生に取り組んでいる。

① えこっちシールキャンペーンの展開

環境保全活動（エコな活動）と地産地消を結びつけ、地域の自然環境と密接なつながりを持つ第一次産業への関心を高めるためにキャンペーンを実施



【キャンペーン内容】

環境保全活動に参加するごとにシール1枚が貰え、シールを5枚集めると、平成24年11月開催予定の収穫祭で地産品と交換できる。

第2号議案

平成23年度 収支決算報告

(収入)

単位:円

科 目	平成23年度 当初予算額	平成23年度 決算	差引き	備 考
会 費	100,500	119,500	19,000	個人 69→104名 済:98 + 過年度:7 市民団体 21→22名 済:22 自治会 17→20名 済:17 企業 14→14名 済:14
補助金	1,532,000	1,532,000	0	野洲市 (環境基本計画推進事業補助金)
受託金	2,612,000	2,612,000	0	野洲市 (ふるさと雇用再生特別推進事業)
寄付金	85,000	79,900	△5,100	財団法人 野洲市文化スポーツ振興事業団 (エコフリーマーケット出店者)
繰越金	19,000	19,377	377	前年度繰越金
雑入	1,000	184	△816	預金利子
合 計	4,349,500	4,362,961	13,461	

(支出)

単位:円

科 目	平成23年度 当初予算額	平成23年度 決算	差引き	備 考
事業費	1,562,000	1,478,439	83,561	自然部会 879,665 円 エコ資源部会 219,913 円 まち・くらし部会 375,081 円 緑のカーテン 3,780 円
受託事業	2,612,000	2,612,319	△319	人件費 2,394,406 円 物件費 217,913 円
事務費	128,000	81,355	46,645	印刷製本費 20,050 円 通信運搬費 9,360 円 消耗品等 51,945 円
予備費	47,500	0	47,500	
合 計	4,349,500	4,172,113	177,387	

平成23年度 収支決算の結果

収入決算額 4,362,961 円

支出決算額 4,172,113 円

収支差引き額 190,848 円

収支決算による差引き額 190,848 円は、平成24年度に繰越しするものとする。

平成23年度 環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

会計監査報告

監査結果

平成23年度環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」の収支決算について監査を行った結果、帳簿の記載および領収書等の関係書類はいずれも適正に処理され、決算金額は正確であったので報告します。

平成24年 4月30日

平成24年 5月 1日

監 事

監 事

平成 24 年度 事業計画（案）

各部会の活動方針

昨年度の活動を継続して行っていく中で、関係団体・組織との連携や活動の積極的な情報発信を通じて、プロジェクトの組織拡充と活動の成果をめざす。

また昨年度から、行政とともに環境基本計画の中間見直しを実施しており、計画後期においてより市民が参加できる仕組みの構築を検討していく。その一環として、環境基本計画関連の活動を統一的に発信し、市民に親しみを持ってもらうため、愛称やロゴマーク等の作成を検討する。

自然部会は、県のマザーレイク 21 計画とも連携を図り、里山から川、緑地、田畑、そしてびわ湖までの一連の自然環境の保全をめざした活動を展開することで、多くの市民に対してプロジェクトの趣旨を普及啓発するとともに、自然環境を軸とした地元産業の活性化をめざす。

エコ資源部会は、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた仕組みづくりを行うため、市民が楽しみながら参加できるプロジェクトの実践を進める。特に体制の見直しを図り、啓発活動に力を入れていく。

まち・くらし部会は、一人ひとりが身近な暮らしで実践できる環境に配慮した行動（レジ袋の使用削減、エコドライブ）を普及させるため、事業者や他の関係団体と連携した仕組みを構築することで活動の成果をめざす。

自然部会 事業計画

1. プロジェクト 「『おらが川』人が親しめるきれいな川づくり」

予算 200千円

- ① 家棟川エコ遊覧（櫓漕ぎ体験、自然観察学習船）の運航（4月～10月予定）
- ② ホタルの住める川づくり（8カ所）
- ③ 里山・森・川・田畑・びわ湖の「水」フォーラムの開催（7月1日）
- ④ 河川清掃活動
- ⑤ 家棟川流域の生態調査
子ども対象「生きもの調査」イベント（8月4日）

2. プロジェクト「野洲の里山の自然に触れよう、知ろう」

「山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう」

予算 150千円

- ① 里山・林道の保全作業、間伐材の活用、歴史の道や場所の保全
- ② 子どもや市民が里山に親しむ活動
 - 春 4月8日 春のタムシバ山 花登山
 - 5月9日 篠原小学校 伊勢道峠越え案内
 - 夏 子ども向け「山に親しむ集い」
 - 秋 市民向け「山の自然に触れる」
- ③ 第2期「森づくり塾」の開催
 - ①里山を楽しむ ②森林の水の役割
 - ③山での応急手当 ④歴史を尋ねて

3. プロジェクト 「びわ湖を身近なものにしよう」

予算 200千円

- ① 家棟川エコ遊覧、湖魚食の試食、砂浜学習の開催（5月19日予定）
- ② あやめ浜まつりの開催（8月予定）
- ③ びわ湖の水源地となる里山への植樹活動（冬予定）

4. プロジェクト 「ヨシ地帯をみんなで増やそう」

予算 250千円

- ① 中主小学校でのヨシ苗の栽培などを通じた環境学習の実施（6月予定）
- ② 市民参加によるヨシ群落の保全を実施（冬予定）
- ③ 県の自然再生事業と連携し、ヨシ群落再生の工法などを検討

5. プロジェクト 「まちなかの緑ボリュームアップ大作戦」
「河畔林の再生」「鎮守の森再生」

予算 130千円

- ① 野洲川河辺林（自然林）の保護育成
- ② 市内の緑化推進、啓発
- ③ 樹木の管理講習会の実施

6. プロジェクト 「環境保全型農業推進計画」

予算 20千円

- ① 魚のゆりかご水田事業の啓発

1. プロジェクト 「みんなで進める環境学習」「生ごみ資源化システムづくり」
「天ぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう」
『こんなエコな店があるよ』ガイドブック作成事業」

予算 135千円

- ① 市民を対象とした環境学習会を実施
 - 古紙を使った「リサイクルペーパーアート」
 - 廃食油を使った「エコキャンドルづくり」
 - DVD やクイズを使った「温暖化防止学習」
 - 家庭で手軽にできる「生ごみ堆肥化」
- ② 市内の環境に配慮したエコな店を広く市民に知ってもらうため、他団体とも連携しながら、取り組みを紹介する見学会（ツアー）を実施する。

2. プロジェクト 「天ぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう」

予算 20千円

- ① 参加しやすい回収方法の検討
- ② 廃食油のリサイクルを楽しむ・使う方法を紹介し、啓発を行う。

3. プロジェクト 「お得で楽しいリユースステーションをつくろう」

予算 117千円

- ① リユース品の提供と展示譲渡会への参加を呼びかける
- ② リユースセンターの整備を進め、展示譲渡会の充実を図る。
- ③ 自転車やおもちゃなどの整備の応援要員の募集とリユース展示品目の拡大を検討する。

まち・くらし部会 事業計画

1. プロジェクト 「ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち」

予算 162千円

- ① ごみを減らそう出前講座の実施、拡充
- ② 市内環境啓発キャンペーンの実施
- ③ 3R（ごみの発生抑制、再使用、リサイクル）の啓発
- ④ 地産地消、グリーン購入の啓発活動

2. プロジェクト 「一人ひとりが自動車社会を見直す『エコドライブ』活動」

予算 168千円

- ① エコドライブ講習会の開催
- ② エコドライブ活動モデル事業所の募集

3. プロジェクト 「『環境共育支援ネットやす』の設立と運営」

予算 事務費に含む

- ① 環境学習の情報収集

「つながり」再生プロジェクト 事業計画

1. プロジェクト 「山・川・里・湖の『つながり』再生プロジェクト」

事業費 県補助金

- ① えこっちシールキャンペーンの展開
- ② 地産地消の啓発推進

第4号議案

平成24年度 予算（案）

（収入）

単位:円

科 目	平成24年度 当初予算額	前年度 当初予算額	差引き	備 考
会 費	120,500	100,500	20,000	個人 @500× 101人 市民団体 @1,000× 22団体 自治会 @1,000× 20団体 企業 @2,000× 14社
補助金	1,561,000	1,532,000	29,000	野洲市 (環境基本計画推進事業補助金)
受託金	2,336,000	2,612,000	△276,000	野洲市 (緊急雇用創出特別推進事業)
寄付金	85,000	85,000	0	財団法人 野洲市文化スポーツ振興事業団 (エコフリーマーケット出店者)
繰越金	190,000	19,000	171,000	前年度繰越金
雑入	1,000	1,000	0	預金利子
合 計	4,293,500	4,349,500	△56,000	

（支出）

単位:円

科 目	平成24年度 当初予算額	前年度 当初予算額	差引き	備 考
事業費	1,562,000	1,562,000	0	自然部会 0 円 エコ資源部会 0 円 まち・くらし部会 0 円 緑のカーテン 0 円
受託事業	2,336,000	2,612,000	△276,000	人件費 1,773,000 円 物件費 563,000 円
事務費	345,000	128,000	217,000	通信運搬費 128,000 円 消耗品費 217,000 円
予備費	50,500	47,500	3,000	
合 計	4,293,500	4,349,500	△56,000	